科目名	財務諸表論Ａ　　Financial Statement A						
科目担当者	大内 健太郎　　ŌUCHI Kentarō						
単位数	２	配当年次	２年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	現代社会で経済活動を行う組織体の大部分は財務諸表の作成が必要です。現代社会で生活する以上、財務諸表と無縁の生活を送ることは稀です。財務諸表の正しい使い方、正しい作り方を理解することは今後の人生において有益となる可能性が高いといえます。 本講義は財務諸表作成に関する背景、制度、実際に作成されている財務諸表の内容について学習します。加えて毎回の授業において、会計や企業経営に関するトピックスから課題を設定して出題しますので、授業内で解答する小レポートを作成していただきます。 定期試験を行います。						
授業の到達目標	①財務諸表作成の背景、意義、構造を理解する。 ②財務諸表作成の背景や変遷から、財務諸表の内容とその基礎となる会社法などの法人の根拠法、会計基準、会計原則などの会計のルールを理解する。 ③財務諸表の基本を理解する。 ④財務諸表制度における論点を理解する。 ⑤財務諸表に関連して存在する社会課題や論点について考察する力を身に付ける。						

授業計画・内容		
	1	ガイダンス：会計の概要
	2	会計の歴史・現代会計の定義・企業会計の目的
	3	企業会計の役割、財務諸表の定義・会計学の領域
	4	企業会計の三大計算・会計観
	5	会計公準・会計制度の類型
	6	日本の財務諸表の体系・財務諸表の根拠法
	7	企業会計原則①真実性の原則・正規の簿記の原則
	8	企業会計原則②資本と利益の区分の原則・明瞭性の原則
	9	企業会計原則③継続性の原則・保守主義の原則・単一性の原則・重要性の原則
	10	損益計算書原則
	11	収益の認識と測定
	12	収益認識基準
	13	収益の測定
	14	損益計算書
	15	資産の測定

授業外学修 (事前学修)	決算・利益・倒産など財務諸表に関連する事例となるようなニュース等を新聞やインターネット、ニュースなどで探しておくようにしてください。毎回 2 時間程度行っていただくことを想定しています。		
授業外学修 (事後学修)	講義中に出てきたキーワードを復習し、説明できるようにしておいてください。毎回 2 時間程度かかるレベルとして設定しています。		
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験 毎回の小レポート	50% 50%	①②③④⑤ ①②③④⑤
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合		
教科書	坂本 眞一郎・大内 健太郎『新版　会計学研究』創成社		
参考文献	新井 清光・加古 宜士『現代会計学』中央経済社 田中 弘『新財務諸表論』税務経理協会 佐藤信彦『財務諸表論の要点整理』中央経済社		
その他			